

家庭の機能に関する一考察（その2） —中学生対象の調査に基づく家庭機能の課題—

A Study on the Function of the Family. (No. 2)
—Concerning with Junior High School Student's
View of the Family.—

田口 かおる

Kaoru TAGUCHI

はじめに

現代の一般的な家庭の機能として、(1) 基本的要求の充足（生命の維持に必要な衣食住をととのえる、生活のエネルギーの生産、性的充足、生命の再生産）、(2) 経済的安定、(3) 人間形成（育児や子どもの社会化、成人の精神的安定）、(4) 家庭生活文化の創造などがある¹⁾。しかし、社会の進展によって家庭の外部に様々な機能集団が発達し、食事、教育、娯楽など、多くの機能が社会化してきている。愛情、生殖、養育、休息などは依然として家族特有の機能であると考えられるが、その機能は変化し、多様化してきている。

前報²⁾において高校生の結婚観を調査し、そこから、個性を生かした生き方、自分らしさを大切にすることが重要視される一方で、根強く残る性別役割観、夫婦別姓に対する消極的意見の多さから、個人的思考と「家」意識といった相反する意識の存在を読み取ることが出来た。しかし、愛情を基にした家庭を築き、子どもを産み、育てたいとしていることは、多くの生徒に共通しており、愛情の機能を重視していることが分かった。現在、出生率が低下し少子化が

進む中で、家庭でのしつけの機能が低下していると言われ、子ども達もからだや心に関する多くの問題を抱えている。先日、中教審が発表した新時代の教育基本法の中でも、家庭は教育の原点であり、すべての教育の出発点であるとしている。豊かな人間性を育み、自立心を養う上で重要な役割を持つとも示されている³⁾。

そこで、本報では中学生の生活状況を調査し、家庭に求められることは何か、家庭の機能を中心に考察することを目的とする。

調査方法

2002年7月に東京都内の公立中学校に在籍する生徒588人（1～3年）に対して、記述式の質問調査（表1）を実施した。対象者の内訳は表2のとおりである。

表2 調査対象

性別	男子(人)	女子(人)
中1	97	115
中2	107	88
中3	101	80
計	305	283

表1 調査用紙

アンケート

① あなたの性別 1: 男 2: 女

② あなたの年齢 1: 12歳 2: 13歳 3: 14歳 4: 15歳

③ あなたは何人家族ですか。() 人家族

④ あなたは保育園と幼稚園のどちらに通いましたか。また、何歳から何歳まで通いましたか。
 1: 保育園に通った () 歳～() 歳まで
 2: 幼稚園に通った () 歳～() 歳まで

⑤ 子ども部屋について教えてください。
 1: 子ども部屋はない 2: 自分ひとりの部屋
 3: きょうだいと同じ部屋 4: その他 ()

⑥ おこずかいをもらっていますか。
 1: 毎月決まった額をもらっている (月 円)
 2: 必要に応じてもらっている (月 円位)
 3: もらっていない

⑦ ⑥でおこずかいをもらっていると思える人は、おこずかいをどんなことに使っていますか。
 []

⑧ 家の手伝いはしていますか。 1: はい 2: いいえ

⑨ ⑩で「はい」に○をした人だけお答えください。(当てはまるもの全てに○)
 1: 食事の準備 2: 食事の片付け 3: 掃除
 4: 洗濯(洗う) 5: 洗濯物を干す 6: 洗濯物を取り込む
 7: 洗濯物を洗う 8: 買い物 9: その他 ()

⑩ あなたの平日の朝食は、次のうちどれが多いですか。(1週間中3回以上当てはまるものに○)
 1: 家族全員で食べる 2: 父親と食べる
 3: 母親と食べる 4: 子どもだけで食べる
 5: 自分ひとりで食べる 6: 家族バラバラに食べる
 7: その他 ()

⑪ あなたの平日の夕食は、次のうちどれが多いですか。(1週間中3回以上当てはまるものに○)
 1: 家族全員で食べる 2: 父親と食べる
 3: 母親と食べる 4: 子どもだけで食べる
 5: 自分ひとりで食べる 6: 家族バラバラに食べる
 7: その他 ()

⑫ あなたは風呂に死んだことがありますか。
 1: ある(父親・母親) 2: 全くない(父親・母親)

『ある』に○をした人だけ教えてください
 どんな時に死なれましたか(なるべく具体的に)
 []

⑬ 子どものころ(小学生)、どんな遊びをしていましたか。
 1: サッカー 2: 野球 3: かくれんぼ
 4: おにごっこ 5: ごむとび 6: ファミコン
 7: その他 ()

⑭ 幼い頃、何になりたいかと思っていましたか。
 1: スポーツ選手 () 2: 俳優 3: 歌手
 4: 漫画家 5: 学校の教師 6: 保育・幼稚園の教師
 7: スチュワーデス 8: アナウンサー 9: 食べ物屋 ()
 10: 医者 11: その他 ()

⑮ 現在、何になりたいか考えていますか。
 1: スポーツ選手 () 2: 俳優 3: 歌手
 4: 漫画家 5: 学校の教師 6: 保育・幼稚園の教師
 7: スチュワーデス 8: アナウンサー 9: 食べ物屋 ()
 10: 医者 11: その他 ()

⑯ 睡眠について、あなたは何時に寝て、何時に起きますか。
 寝る時刻: () 時ごろ 起る時刻: () 時ごろ

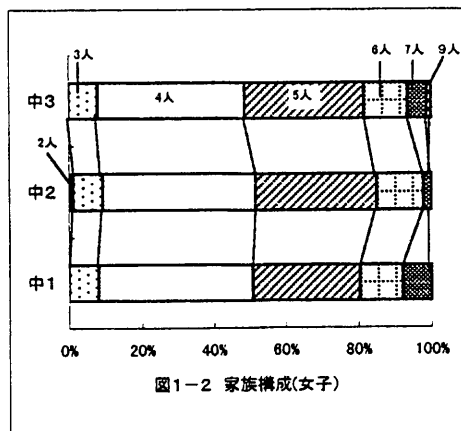
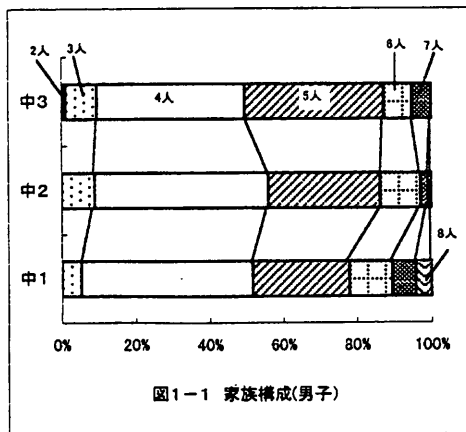
⑰ 門限はありますか。 1: ある 2: ない

『ある』に○をした人だけ教えてください。
 門限は何時ですか。() 時
 ご協力ありがとうございました。

調査結果

(1) 家族構成について

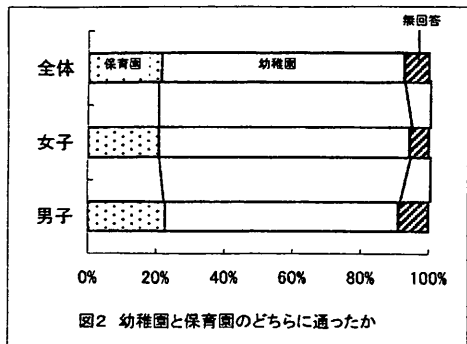
世帯を構成する人員は4人が最も多く、男子42.6%、女子41.0%であった。次いで5人は男子30.2%、女子30.7%であった。また、6人以上という家庭が約15%存在している(図1-1、1-2)。



(2) 生活の体験及び実態について

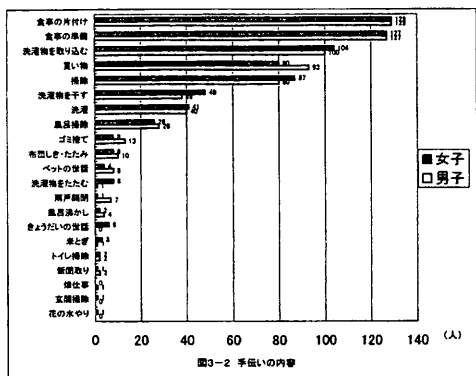
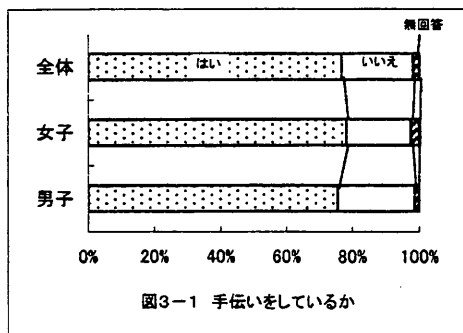
1) 集団保育の体験

集団保育の体験として、保育園には男子22.6%、女子20.8%が、幼稚園には男子68.5%、女子73.5%が通ったと回答した。全体で92.7%の生徒が小学校就学前に集団保育を体験していることになる(図2)。



2) 家事手伝いの状況

「手伝いをしているか」の質問で、「はい」の回答は男子75.4%、女子78.1%であった(図3-1)。家事手伝いの内容として最も多かったのは男女とも「食事の片付け」で、次いで「食事の準備」、「洗濯物を取り込む」が多かった(図3-2)。また、手伝いの状況は、何か1つを手伝うというのではなく、一人あたり約3種類程度手伝っている生徒が多く、特に「食事の準備」と「食事の片付け」は重複していることが多かった。

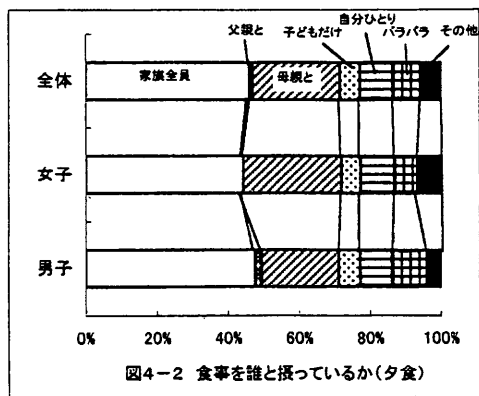
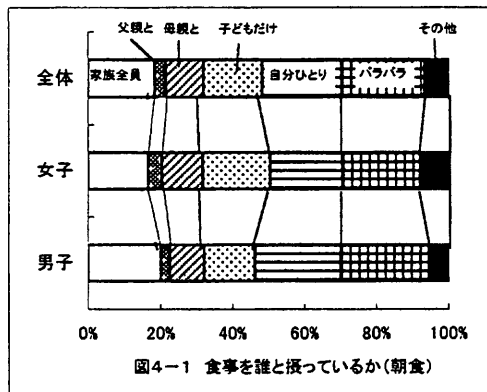


3) 食事は誰と摂っているか

朝食については、「自分ひとり」の回答が最も多く、男子21.3%、女子18.0%、次いで「家族全員」で男子18.0%、女子14.8%、「子どもだけ」が男子12.8%、女子17.0%であった。また、「父親と」「母親と」の回答は全体の約12%であった。「その他」(約6%)では「朝食を食べない」と記述した生徒が多かった(図4-1)。

夕食については、「家族全員」の回答が最も多く、男子41.6%、女子37.8%で、「父親と」「母親と」も合計すると約60%の生徒が親と食事をしていることがわかった。しかし、残りの約40%は「子どもだけ」「自分ひとり」と回答している(図4-2)。

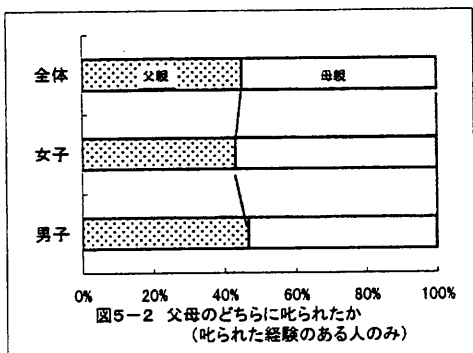
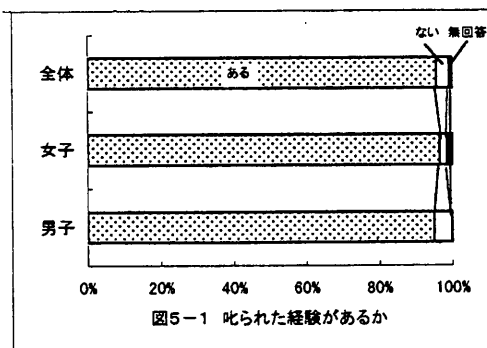
家族と一緒に食事は、夕食の方が多いことがわかった。



4) 家庭のしつけの状況

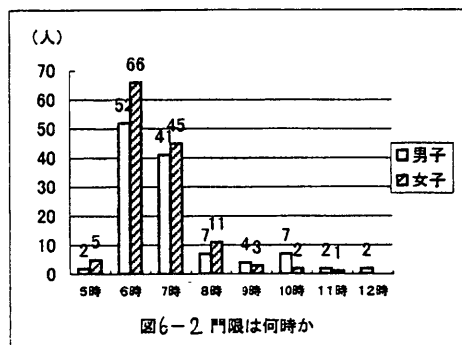
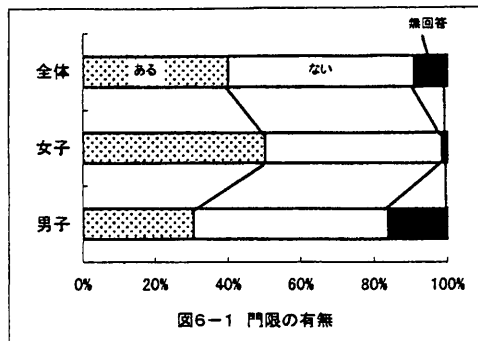
① 叱られた経験

「叱られた経験がある」の回答は男子93.4%、女子96.5%で、ほとんどの生徒が叱られた経験を持つことがわかった(図5-1)。また、「父母のどちらに叱られたか」では、父親より母親の方が多く、「母に」は男子53%、女子57%であったのに対し、「父に」は男子47%、女子43%という回答結果であった。(図5-2)。



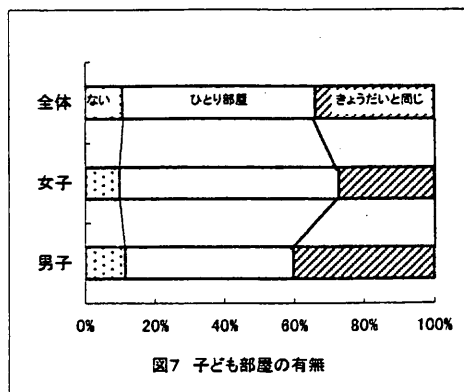
② 門限の実態

「門限がある」の回答は男子30.5%、女子50.2%で、男子の約7割、女子の約5割に門限がないことがわかった(図6-1)。また、「門限は何時か」の回答で最も多かったのは男女ともに、「6時」で、次いで「7時」、「8時」という回答結果であった(図6-2)。



5) 子ども部屋の有無

子ども部屋があると回答した割合は86.8%で、「ひとり部屋」の回答は男子46.9%、女子61.5%で全体の半数近くであった。次いで「きょうだいと同じ部屋」の回答が男子39.0%、女子26.5%であった(図7)。



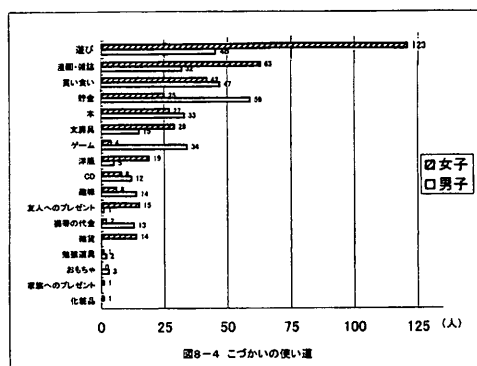
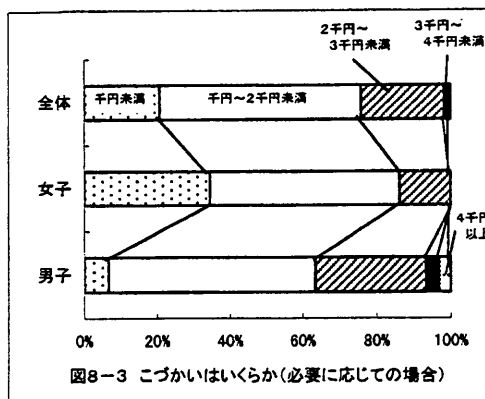
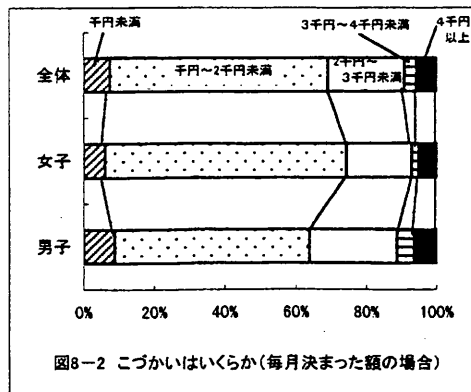
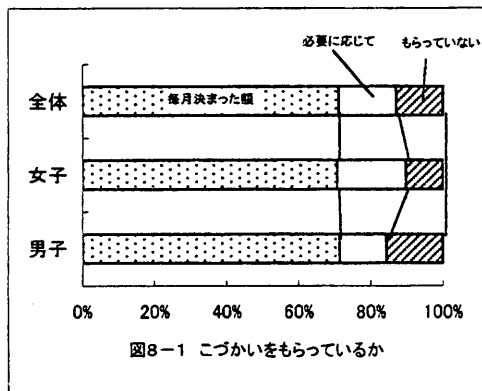
6) こづかい

「毎月決まった額をもらう」の回答が最も多く、男女とも約70%であった。「必要に応じてもらう」は男子12.8%、女子19.1%で、「もらっていない」は男子15.4%。女子10.2%であった（図8-1）。

また、「毎月決まった額ではいくらもらっているか」の回答では「千円～2千円未満」が最も多く、次いで「2千円～3千円未満」、「千円未満」であった（図8-2）。

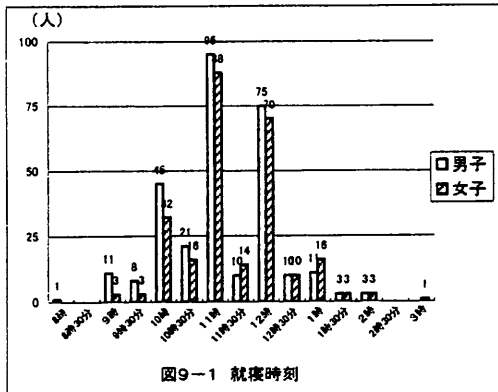
「必要に応じてもらっている」の回答では「千円～2千円未満」が最も多く、次いで「2千円～3千円未満」「千円未満」の順であった（図8-3）。

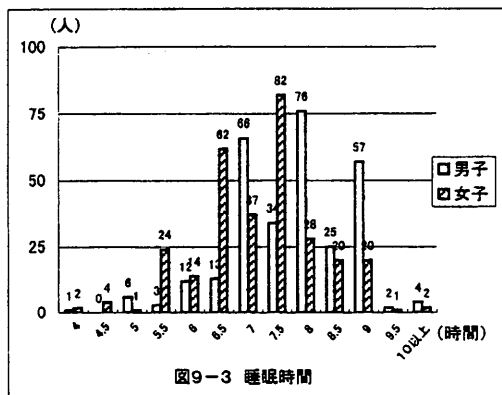
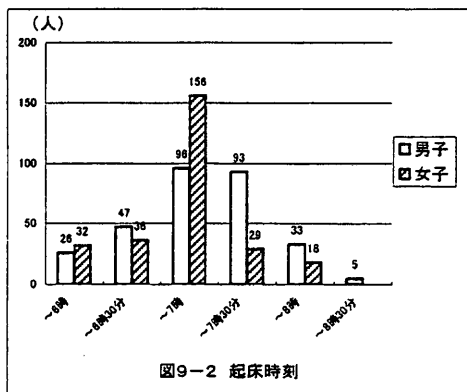
こづかいの使い道としては、男子では「貯金」「買い食い」「遊び」「ゲーム」の順に多く、女子では「遊び」「漫画・雑誌」「買い食い」「文房具」の順に多かった（図8-4）。



7) 睡眠時間

就寝時刻で最も多かったのは男女とも「11時」で31.0%、次いで「12時」、「10時」であった（図9-1）。起床時刻では男女とも「7時」が最も多く43.1%、次いで「7時半」、「6時」であった（図9-2）。また、睡眠時間は男女とも「8時間」が最も多く27.0%、次いで男子は「7時間」、「9時間」、女子は「7時間」、「7時間半」となった（図9-3）。





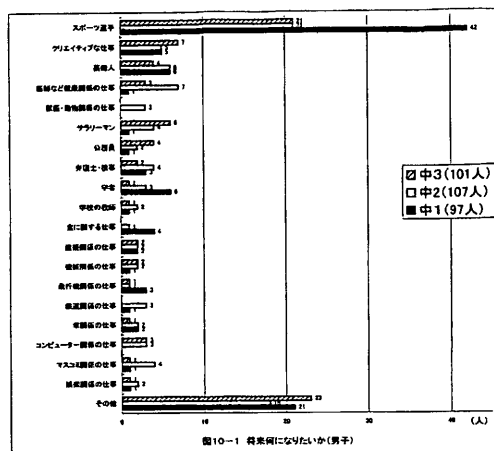
8) 将来について

将来就きたい職業を質問したところ、多種多様な職業があげられた。職種は様々であるが、全体の83.7%の生徒が自分の将来に目標や夢を持っていることがわかった。しかし、残りの16.3%の生徒からはまだ将来に対して具体的な回答を得られない状況であった(図10-1、10-2)。

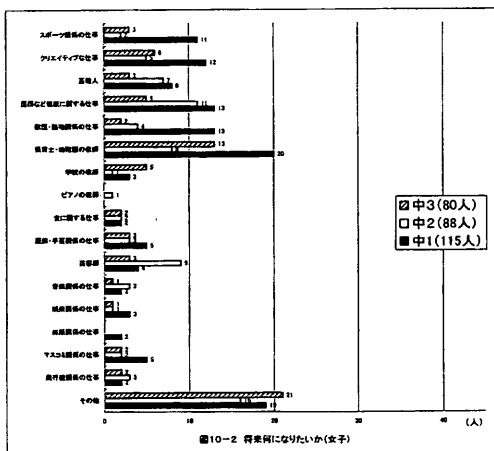
考察

(1) 家族構成について

近年、家族の形態は「核家族化」「少子化」の傾向にあり、児童のいる世帯についても、核家族世帯は平成10年→平成12年で、69.1%→71.2%と増加し、反面、三世帯世帯は27.9%→25.9%と減少している⁴⁾。平均児童数は市群別に平成11年のデータを見ると、群部で1.84人、



スポーツ選手の内訳	公務員の内訳	クリエイティブな仕事の内訳
サッカー 15 13 1 2	警察官 0 1 2	漫画家 4 3 3 10
野球 15 4 2 2	税関官 0 1 0 1	脚本家 0 0 1 1
バスケットボール 6 0 2 3	その他 1 1 1 3	小説家 0 0 1 1
卓球 1 2 0 3		音楽家 0 1 0 1
マラソン 1 0 0 1		ゲーム作家 1 0 3 4
水泳 2 0 0 2		
プロレス 1 0 0 1		
スキー 1 0 0 1		
競走 0 1 0 1		
ボクシング 0 0 1 1		
バレーボール 0 0 1 1		
釣り 0 0 1 1		



スポーツ関係の仕事の内訳	クリエイティブな仕事の内訳	その他の内訳
バスケットボールの選手 8 0 2 8	ケーキ屋 2 1 0 3	弁護士 1 0 1 2
レスリングのコーチ 0 0 1 1	パティシエ 0 1 0 1	政治家 1 0 0 1
ダンスの指導 2 0 0 2	カフェ 0 0 0 1 1	漫画家 1 1 1 3
音楽の指導 1 0 0 1	フリーランス 0 0 1 1	学生 0 0 1 1
水泳のコーチ 0 0 1 1		公務員 0 0 1 1
ダンサー 1 0 0 1		OL 0 0 1 0 1
バレーボール 1 1 0 2		ファッション関係の仕事 0 0 1 1
		環境に関する仕事 0 0 1 1
		小説家 0 0 1 0 1
		花屋 0 0 1 0 1
		ガラス職人 0 0 1 0 1
		フリーデザイナー 17 9 11 37
		答え中 0 1 4 5

大都市で1.66人となっており、市群での格差が生じ、特に都市部での平均児童数の減少がみられる⁵⁾。本調査では世帯を構成割合を調査することができなかったが、4人家族もしくは5人家族というのが約70%を占めて、6人以上という家庭が約15%であった。

(2) 生活の体験及び実態について

1) 集団保育の体験

小学校就学前に集団保育を体験することは子どもの成長にとって、非常に大切なことである。子ども達にとって、ほぼ同年齢の仲間との関わりはさまざまな面の発達に大きな影響を与えると思われ、親以外の人間との関係の中で、子どもは「他者」を認識し、様々な経験をすることで思いやりや共感の心、社会的ルールやコミュニケーションの能力、問題解決のための力などを身に付けていく。人間関係形成の基本的要因がこの時期に形成され始めるのである⁶⁾。本調査の結果においても、大部分の生徒が集団保育を体験したと回答しており、家庭保育だけでなく、集団保育を活用する親が多いことがわかった。また、「保育園と幼稚園のどちらに通ったか」の回答では、保育園は約20%で幼稚園は約70%と両者間に大きな差がみられた。これは親が共働きであるか否か、また祖父母と同居であるかなどが大きく関与してくると考えられる。

2) 家事手伝いの状況

家事手伝いの状況はしつくと深く関与しており、子どもが家庭においてどのように生活しているかを知る大きな手がかりとなるものである。本調査の結果から男女とも約7割の生徒が家事手伝いをしていると回答しており、さらに平均して1人あたり約3種類の内容を手伝っていることから、調査校の生徒はかなり家事に参加していることが伺える。厚生省「平成10年版厚生白書」⁷⁾によると、家事手伝いを「あまりやらない」と「全くやらない」が6割弱で、「少々やっている」が2割以上であり、家事参加を当然の役割として

やっている比率はとても低いことがわかる。本調査においても家事手伝いをする生徒は多くないであろうと予測していたが、調査結果から多くの生徒が家事に参加し、家庭の仕事を分担していることがわかり、家庭においてしっかりと親子関係があり、しつけがなされているのではないかと推測する。また、男女ともに家事手伝いをすることは、伝統的な性別役割観や固定的な結婚観、社会通念にとられることなく、自分のライフスタイルについて考える大きなきっかけになるものであり、子どもが家事手伝いを積極的に行うことのできる家庭環境を作ることとは大切なことである。

3) 食事は誰と摂っているか

子ども達の「孤食・個食・子食」が問題と叫ばれるようになって久しい。このように言われるようになった要因として、①家族や異世代の人と一緒に食事をする機会が年々減少し、その結果、ひとり食べや子どもだけの食事の低年齢化が進行した ②子どもの側の事情（塾、習い事等）が多くなった ③子ども自身の「家族と一緒に食事をする」ことへのこだわりが薄れている ④コンビニ等で買い物をし、友人と店先で食べるなど、食事の乱れの日常化と多様化が進んだ⁸⁾などが指摘されている。これらは人間関係や家族関係の希薄化と密接に関連しており、このような食事状況が子どもの心身の健康な発達に良い影響をもたらすとは考えられない。

そこで、朝食と夕食について、それぞれ誰と食事を摂っているか（平日で週3日以上当てはまるもの）を質問したところ、朝食を「家族全員で食べる」は約16%で、「ひとりで食べる」「子どもだけで食べる」「バラバラに食べる」は約55%と半数以上を占めていた。夕食では「家族全員で食べる」は約40%で朝食時の2.5倍に増加し、「ひとりで食べる」「子どもだけで食べる」「バラバラに食べる」は約20%と半数以下に減少した。この結果から、家族の団欒としての食事はそれほど多くないことがわかった。

4) 家庭のしつけの状況

子育てに関する社会問題として、育児不安や虐待が問題視されるようになって久しい。学齢期児童の保護者でも3割弱が「子育てに関して、途方にくれることがある」と感じており、子どもとうまく接することができないと感じている親も少なからずいると言われている⁹⁾。そこで、家庭のしつけの状況を知るために、叱られた経験と門限の実態について調べた。

① 叱られた経験

父親不在と言われ、父性が欠如していると言われているが、子どもが成長する過程で大切なのはこの「父性」愛と「母性」愛とをバランスよく受けることではないかと考える。

調査結果をみると、生徒の約95%が叱られた経験を持ち、「父親から」は約45%、「母親から」は約55%となり、父親と母親を比較すると母親に叱られたと回答した生徒がやや多いものの、父親の存在も認められる。叱られるという経験が父親・母親のどちらか一方に偏らないことが、子どもが従来の性別役割観にとらわれないように成長することが期待できるのではないだろうか。

② 門限の実態

24時間営業のコンビニや深夜営業のファミリーレストランなどが増加し、マスコミでは中高生の夜遊びやプチ家出が取り上げられ、危険を伴う行為をする子ども達が増加しているように感じる。本調査の結果でも、「門限がある」の回答は、約4割で、半数以上が「門限はない」と回答している。

5) 子ども部屋の有無

近年、家族を構成する人数が減少したことで、子どものひとり部屋は増加傾向にあるのではないかと予測したが、本調査で「ひとり部屋」と回答したのは約54%で、男子より女子の割合が高く、残りの半数近くは「きょうだいと同じ部屋」

「子ども部屋はない」としており、「ひとり部屋」はそれほど多くはなかった。「ひとり部屋」はプライバシーが守られるが、家族とのコミュニケーションは減少するように思われる。一方、「きょうだいと同じ部屋」の場合は、きょうだいが互いに理解することが必要となり、コミュニケーションも増え、社会性の発達が促されるのではないかと考える。

6) こづかい

決められた金額の中で欲しいものを購入したりすることは、適切な経済観を養う上で重要なことであるから、決まった金額でこづかいをもらうのは良いことではないだろうか。

調査結果より、全体の約86%がこづかいをもらっており、金額は「千円～二千円未満」が半数近くで最も多い。使い道は男子で「貯金」が最も多く、その理由として、しばらく貯めておいて欲しいものが出た時に買うため、という回答が多かった。女子は「遊び」が最も多く、男女間に差がみられた。また、男女とも「買い食い」の回答が多くみられ、食生活が多少乱れている可能性が伺える結果となった。

7) 睡眠時間

睡眠は人間にとって欠くことのできない要求であり、それを満たすことは精神の安定と、からだの健康維持のために重要なことである。骨の発達や細胞分裂を促進し、成長をさかんにする働きを持つ成長ホルモンは就寝中に分泌されるといわれているが、そのホルモンの分泌は就寝時刻とも深く関与し、夜12時を過ぎてからの就寝では分泌量が減少するといわれている。従って、成長ホルモンを十分に分泌させるためには夜12時前には就寝することが望ましい。調査結果では、生徒の大半は夜12時までに就寝し、睡眠時間も男女ともに8時間が最も多く、健康的な生活を維持している中学生が多いと考えられる。なお、睡眠時間を男女で比較すると、男子より女子の方が30分～1時間程度短いことがわ

かった。

8) 将来について

生徒が回答した「将来就きたい職業」には様々な職種があげられ、多種多様であった。男子ではスポーツ選手や機械関係、コンピューター関係の仕事を希望する生徒が多く、女子では保育士・幼稚園の教師、看護婦、動物に関わる仕事を希望する生徒が多かった。近年、高校生女子の間で栄養士を希望する割合が増えているが、中学生ではフードコーディネーターという職業があげられていたが、回答欄に記載しなかったせいか栄養士の回答は0であった。全体として約84%の生徒が自分の将来に対して、具体的な希望を持っていることがわかった。しかし、残りの約16%の生徒は将来に対して、まだ具体的な希望をもっていないと回答している。それは中1・中3に多く、中2ではやや少ないという結果であった。これは、中1では将来についてまだ漠然としており、中3では受験も控えているために、将来についての具体的な考えが定まっていないのではないだろうか。

まとめ

核家族化と少子化が進み、家族のあり方が単純化して、様々な面で人間関係の希薄化、コミュニケーション能力の低下、根強く残る性別役割観からくる父親不在と母親の子どもに対する過保護・過干渉などの問題が叫ばれるようになって久しい。子どもが成長する過程で最も大切なのは環境であり、どのような状況で育ったかは人格やその後の人生に大きな影響を与えるものである。本調査の結果では、調査校の生徒は家庭での役割を分担し、父親からも母親からも叱られた経験を有し、睡眠も十分に取、将来にも目標を持っていることから、心身ともに健やかに成長していることが伺えた。しかし、食事に関しては、家族一緒に食卓を囲む習慣は少ないという現状であり、食の役割についてより深く考えていく必要性を感じた。「食」は「人間が

人間らしく成長するために大切なもの」のひとつである。ただ、生命を維持するためだけに食物を摂取するのではなく、食物が私達のからだの健康維持や心（精神）にも大きな影響を与えることを常に忘れることなく、「食」と「食をとりまく環境」について社会全体、そして親と子どもが一緒になって、そのあり方の重要性を考えていくことが大切なのではないだろうか。

家庭の機能について、社会学の分野ではG. P. MurdockやF. W. Ogburn、R. M. Maclverなどの学説¹⁰⁾があり、性的機能、生殖的機能、経済的機能、教育的機能などが家庭の機能としてあげられている。家政学からは、生活充実の機能（自分を中心とする幸福な生活を目標とする）や世帯移行の機能（子を中心とする幸福な生活を目標とする）¹⁰⁾があげられる。これらの家庭の機能は社会の変化に伴い多様化し、今後も変化し続けていくものであろう。しかし、人間が人間らしく、心身ともに健康に育つために、いつの時代も変わらず大切な機能もあるはずである。

本研究を通して、家庭の機能として最も重要であると考えたものは、子どもの社会化と成人家族員の心理的安定ではないかと考える。子どもの発達のゆがみ、大人社会のひずみ、様々な家族問題と社会問題・・・、人が家族を形成し、家庭を生活共同体の基礎単位としてとらえる以上、全ては家庭に始まり、家庭で終わるのではないだろうか、と考えたからである。そして、前報²⁾でも述べたように、家族員相互が愛情や互いをいたわり合う心を持って生活することも大切なことであると思う。今後も、子どもの発達と家庭環境などの面から、家庭の機能についてさらに学んでいきたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導頂きました渡辺純子教授に深く感謝し、御礼申し上げます。

また、アンケート調査にご協力くださいました中学校の先生方と生徒の皆さんに厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 「新しい技術・家庭 指導資料編」 東京書籍株式会社 (2002)
- 2) 「家庭の機能に関する一考察」 田口かおる 東京家政大学生生活科学研究報告 第25集、p. 45～55 (2002)
- 3) 『読売新聞』(2002年11月15日)
- 4) 「国民生活基礎調査 日本子ども資料年鑑 2002」 KTC中央出版 (2002)
- 5) 「平成11年国民生活基礎調査 日本子ども資料年鑑 2002」 KTC中央出版 (2002)
- 6) 「乳幼児期の人間関係」 佐藤真子 株式会社培風堂 (1996)
- 7) 「平成10年版 厚生白書 新しい技術・家庭 指導資料編」 東京書籍株式会社 (2002)
- 8) 「なぜひとりで食べるの」 足立己幸 日本放送出版協会 (1983)
- 9) 「家族・家庭 日本子ども資料年鑑 2002」 KTC中央出版 (2002)
- 10) 「家族関係 改訂版」 森本武也 大明堂 (1978)